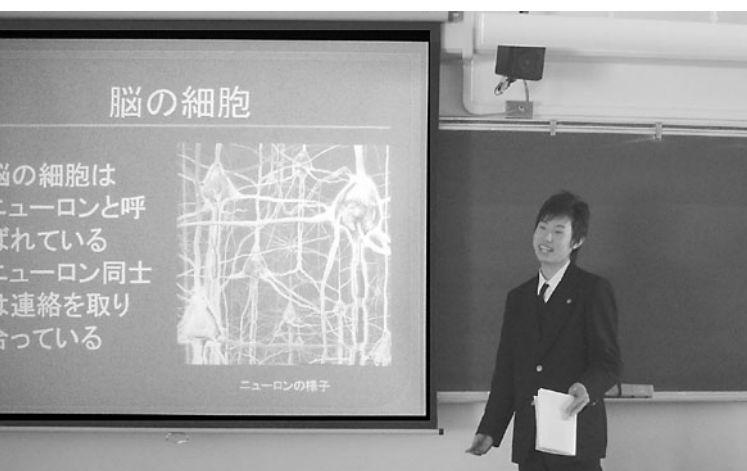




Visual

Visual 「適切な発表資料が用意されている」も3つの細項目に分かれ、①スライドに理解を促す図表、グラフ、映像等が使われている、②文字の大きさが適切である、③スライドの枚数が適切である、です。

Delivery

Delivery 「デリバリの仕方が適切である」の内容もやはり3つの細項目に分かれ、① Posture がしっかりできている、② Voice が適切である、③ Eye Contact ができている、です。①の細項目の要素は「立ち位置・姿勢が適切である」「身振り・手振りなどの Gesture ができている」、②の細項目の要素は「声の大きさが適切である」「速さ・間の取り方、抑揚・強弱の付け方が適切である」「専門家でなくても理解しやすい用語を用いている」、③の細項目は「聴衆を向いて話している」「視線が固定せず、全体を見ながら話している」、です。

全員発表会

評価者はこれを7分間で評価しなくてはならず、かなり大変です。ただ、司会・タイムキーパーは事前に決めてあり、司会の役割を周知徹底してある生徒が行うので、純粋に評価者に徹することができます。18会場に分かれるため、研究分野ごとの分類にはならずランダムです。評価者もその時間の空いている教員が入るため、普段指導してもらっている担当教師に当たる確率は非常に小さく、つまり、まったく関連のない評価者に評価されるわけです。指導担当による研究内容の評価と、

このプレゼンテーションの評価を総合して、筑波大学での代表発表会参加生徒が推薦されるのです。

生徒に話していることですが、「プレゼンテーションの良し悪しと内容の良し悪しはまったく関係ない」ということがあります。恐ろしいことに、特に今回のように“素人”対象のプレゼンでは決定的です。たいした内容のない発表でも、うまくプレゼンすれば非常に好感が得られるし、すごい内容の研究でもプレゼンが下手だとほとんどの人はつまらない発表だと感じてしまう。つまり、プレゼンの仕方ですらでも挽回可能だということ、これは人生の極意につながる、という話です。将来君たちが世界に出て行って仕事をするとき、強烈に実感するはずだ、今日はその最初の場面だと思って思いっきりやりなさい、ということです。私の担当している生徒には「田代流6つの極意」を伝授しますが、ここでは秘密です。

茗溪の生徒たちは、中学校から様々な場面でプレゼンを練習してきました。これまでのINFOE誌でも何度も紹介してきました。その総仕上げ、そして外部の人へのプレゼンのスタートとして位置づけ、プレゼンを楽しませています。

Meikei Method - STUDY SKILLS

このコラム「茗溪学園の Study Skills 教育」の掲載内容全てをまとめた冊子の新版が完成しました。無料でお送りしますので、ご希望の方は、下記までどうぞ。

kouhou@meikei.ac.jp または info@infoe.com



茗溪の高校2年生全員が行う、個人課題研究の発表会です。

1年間掛けて調べ・考え・書き上げた研究内容のパワーポイントを使っての発表です。そのプレゼンテーション自体にルールがあり、評価基準があります。プレゼンを単なるパフォーマンスとするのではなく、プレゼンを通して指導するスキルが明確に示されています。

そして、260名全員の一人ひとりの研究+プレゼンを指導するところに、茗溪の Study Skills への深い思い入れが現れています。

それが、茗溪の個人課題研究の素晴らしさであり、凄さです。脱帽！

茗溪学園中学校高等学校

〒305-8502 茨城県つくば市稲荷前 1-1

TEL : 029-851-6611(代) FAX : 029-851-5455

HP : www.meikei.ac.jp E-mail : entry@meikei.ac.jp